

## 地覆部の厚みを利用した景観向上方法に関する一考察

総合技術コンサルタント 正会員〇三ツ木幸子 佐藤忠明 正会員 長瀬嘉理 中川純子

### 1. はじめに

示方書の性能規定化やコスト縮減が重要視される中で、如何に景観を創出していくかが、今後の技術者の課題となってくるものと考ええる。そこで、ここでは、橋梁の地覆部の厚みを利用した景観向上方法についてフランスの事例を収集したので、コストと機能の面から考察を加えて報告する。

### 2. 地覆部を利用した景観向上

F.レオンハルトは、文献1)で橋の断面を工夫することで景観を向上させる方法について述べている。この時の景観向上の基本は、スレンダー感で、これを確保するため、桁高を目立たなくして、地覆部の厚みを利用して地覆部で形成される水平ライン（以下、地覆ラインと呼ぶ）を強調することを提案している。

### 3. フランスの事例

フランスでの地覆ラインの強調は、着色ラインで具現化している。この事例を写真1～6と写真7から12に示す。写真1～6はコンクリート橋で、写真7～12は、様々な橋梁形式における事例の写真で、上段に全景写真を下段に地覆部の写真を収録している。これらの橋では、すべて、化粧板で地覆部をカバーすることにより、水平ラインを強調し、スレンダー感を創出している。

### 4. 化粧板による地覆ラインの強調

この化粧板による地覆ラインの強調は、景観のためだけに行うことを考えると、コスト縮減の視点から、採用され難いものと考ええる。写真1～6は高速道路のオーバブリッジで、この地覆ラインの色を路線毎に統一し、路線の識別に利用しているようである。これらは着色されないコンクリート橋であるため、化粧板を採用する意味は、鋼橋より大きいものと考えられる。このように景観向上対策に他の役割を付与することにより、採用可能性を探ることができるものと考えられる。

地覆の着色は、わが国でも高速道路のオーバブリッジで早くから試みられている。コンクリートに直接塗装した事例では、経年変化でその着色は目立たなくなっている。一方、フランスの事例は化粧板で行われ、経年が浅いこともあり、初期の色が現時点では保持されている。この化粧板は完全に分離され、地覆からの



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

キーワード：橋梁景観、地覆、化粧板、維持管理、事例

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-7 TEL 03-3291-5040 FAX 03-3291-0090

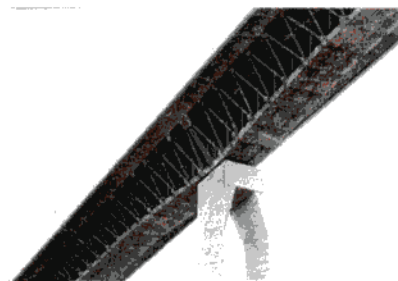


写真 7

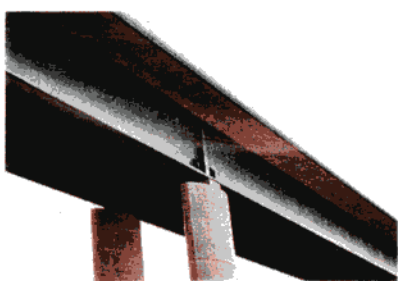


写真 8



写真 9

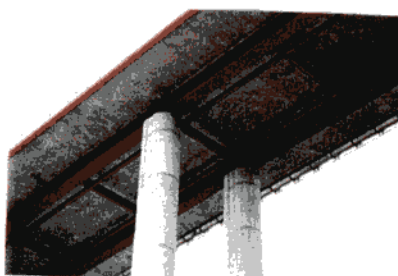
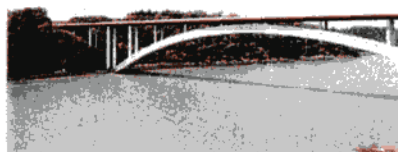


写真 10

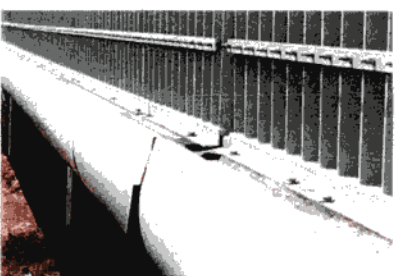


写真 11



写真 12

雨水が流れない構造になっているケースもある。写真 11 では、地覆からの雨水が化粧板の外面に流れ難くなっている。フッ素樹脂塗料や高速道路のトンネルの壁などで、汚濁が水により洗浄できるものなど維持管理し易さから様々な試みが行われており、そこでの開発成果を取り入れて、コンクリート劣化防止などを考慮した維持管理の容易な景観形成を模索すると、この景観向上策は実現性が出てくるものと考えられる。

一方、剥落防止工事を行う際に、化粧板を用いずにこの地覆ラインの強調を行うことも一案と考えられる。この場合、壁高欄との関係もあり、程良い幅の設定に注意しなければならない、また、強調ライン部は、汚濁が水で洗い流される表面処理などで対処して、強調ラインが長期間保持できるよう対処する必要がある。

## 5. まとめ

橋梁の地覆部の厚みを利用した景観向上方法についてフランスの事例収集を行い、コストと機能の面から考察を加えた結果、地覆部の強調による景観の向上策は、維持管理の問題も含めて検討すると、採用の可能性があるものと考えられる。この視点から、剥落防止工事に際して、地覆ラインの強調を行うことも一案と考えられる。

参考文献：1) F.レオンハルト：ブリュッケン、MEISEI Publications, 1998.2